**ヴェスタ・リネアとおこりんぼママ**

トーヴェ・アップルグリェーン・さく

サッラ・サヴォライネン・え

（P.2）

「やだやだ、やめてよ！」

あらら、おおきなさけびこえがします。どこからきこえてくるのでしょう？　ないているのは、だあれ？

「ひとりで、できるもん！」

　こんなおおきなこえでさけんだら、びっくりして、ちいさなリスのしんぞうがとまってしまうかもしれませんよ。木からおちて、しっぽをけがしてしまうことだって。
　あれあれ、まどがあいています。いったい、だれが、どうしたというのでしょう？

（P.5）

リスがまどのなかをのぞきこむと、おんなのこがないているのがみえました。おかあさんらしきおんなのひとが、はなしかけています。

「リネア、ママ、てつだわなくていいわけ？」

でも、リネアというそのおんなのこは、なきじゃくるばかりです。

「もうなかないで、リネア。ママに、はかせてほしいの？　それとも、じぶんではきたいの？」とママがいっても、

「やだやだ」とリネア。

「いやでも、しかたないでしょ」

「タイツなんか、はきたくない！」

　そうリネアにいわれるまえから、ママはしっていました。リネアがタイツをきらいだってこと。ちくちくするって、いつももんくをいうものですから。

（P.7）

　ママはどなりつけたいきもちをぐっとこらえて、やさしいこえでいいました。

「さあリネア、はいてちょうだい。もうでかけるじかんよ」

「でも、やだもん……」

「いいかげんになさい！」

　ママはどなると、すぐにはっとして、きもちをおちつかせようとしました。

　でも、リネアはしっていました。ママのがまんも、そろそろげんかいだってことを。もうすこししたら、ママはほんきでおこりだすことでしょう。

こういうときは、だまってきがえるのがいちばんです。にっこり、とびきりのえがおをつくって。それに、ごめんね、ってあやまったほうがいいってことも。

（P.9）

でもリネアはきづくと、こうさけんでいました。

「じぶんで、はこうとしてたのに。じゃましないでよ！」

　リネアは、はっとしました。どうして、そんなことを、いってしまったのでしょう？

　ママはだまりこんでいましたが、しばらくするといいました。

「あと５ふんで、でかけるからね。ママといっしょにきたいなら、どうしたらいいか……わかるわよね？」

　ママはくるっとせをむけて、いってしまいました。

（P.10）

　ママがせんめんじょで、ガシガシとかみをとくおとがします。おこっているのでしょうか。

　リネアはしかたなくタイツをはくと、そっとママにちかづきました。あやまりたいとおもったけど、ママはリネアのほうに、ふりむいてはくれません。

　ひたすら、かみをといています。ぷんぷんこわいかおをして。

（P.12）

びようしつまでのみちで、ママはずっとむすっとしていました。

（P.15）

　でもびよういんについたとたん、いつものおしゃべりなママにもどりました。でも、リネアに、はなしかけてはくれません。

「いいもん。こっちだって、しらんかおしちゃうもんね」

リネアはむくれていましたが、びようしさんに

「まあ、いいこね。あたまがよさそうだわ」といわれ、とびきりのえがおをつくりました。

ママがなにかぶつくさいうのがきこえましたが、リネアはしらんかおをおしとおしました。

（P.16）

　そのあとスーパーによってから、うちにかえりました。ママはこわいくらい、しずかです。

　ゆいいつはなしたことばは、

「ドア、あけておいて」と、

「つめはかんじゃダメよ」だけでした。

　ママがだいどころのかたづけをはじめたので、リネアはこどもべやにいくことにしました。

リスがまどのそとから、ふたりのようすをみつめています。ママは、おこっているのでしょうか？　しばらくふきそうじをしていないのか、まどがくもっていて、よくみえません。リスはめをこらし、ママのかおがかなしそうなことに、きづきました。

ママはだいどころのいすにすわり、ためいきをつきながら、たちあがっては、またすわり……をくりかえしています。なにをそんなにうかないかおをしているのでしょう？　あたらしいかみがたは、ばっちりきまっているのに。

「ぎゅうにゅうを、れいぞうこにいれないと、くさっちゃうわ」

リスはふあんになりつつも、こどもべやものぞいてみました。

（P.19）

　リネアがまどべに、おままごとようのコップをならべています。

「これはパパの、こっちはポールの。こっちはわたしので、これはあかちゃんの」

　でも、ママのぶんは、ありません。

　リネアはママから、コップはわれやすいから、きをつけるようにといわれていました。てをきってしまうかもしれませんから。

やがてならべたコップが、がたがたいいだすと、リネアは、こころのなかで、いのりました。

「きゃっ、われちゃう！　おねがい、くずれないで」

　するととつぜん、ママがドアのまえにたっていました。リネアはびっくりして、よろけてしまいました。ガシャン！

リスはめをまるくしました。「ありゃりゃ、コップがひとつ、われちゃったわ」

（P.20）

リネアはないてしまいました。

「なにやってるの！」ママのどなりごえが、とんできます。「どうしてものをだいじにしないの？　よのなかには、おもちゃであそべないこも、たくさんいるのよ」

　ママにどなられたリネアが、なきながら、なにかさけんでいます。

「ないてたら、なんていってるかわからないわよ」

「ボンドで……、う、ひっく、ボンドでくっつけたいよ！」

「でも、てをきっちゃうかもしれないでしょ。あぶないわよ」とママがいっても、リネアはいやだいやだと、だだをこねつづけます。

（P.22）

　ママはビニールぶくろをとってくると、われたコップをひろいはじめました。おこっているのか、てがふるえています。なみだがゆかにぽたぽたとおちました。

「やだやだ！　ボンドでくっつける！」

　リネアがなきさけんでも、ママはもくもくとひろいつづけます。

ママがだいどころにふくろをおきにいって、もどってくると、リネアはいいました。

「ママなんか、きらい！　リネア、でてく！」

「あっ、そう」

　ママはなにかいいたそうでしたが、ふかくしんこきゅうすると、もういちど、

「あっ、そう」とだけいいのこし、たちさってしまいました。

（P.25）

さらにかなしくなったリネアは、ないたり、てあしをばたばたさせたり、さけんだり……。やがてなきつかれて、ねむってしまいました。

（P.26）

　だいどころでは、ママがビニールぶくろをもって、たっていました。やがてそれをゴミいれにいれると、いすにこしをおろしました。

（P.29）

　やがてパパとポールとおかちゃんが、かえってきました。ぎゅうにゅうは、まだだしっぱなしです。

「ただいま！」

　パパがつぶやきながら、だいどころにはいってきました。

こどもべやにむかったポールは、いもうとのリネアがねむっているのにきがつきました。

「どうしたんだろう？」

　ポールはくびをかしげましたが、レゴをだしてきて、ながいながい、せんろをくみたてはじめました。リネアはあいかわらず、ゆかのうえでねむっています。やまみたいに。

（P.30）

「ママはせかいいち、わるいママなのよ！」そのころだいどころでは、ママがパパのむねで、ないていました。「わたしには、ママしっかくよ！　すぐにかっとなっちゃうんだもの」

　パパはママをなぐさめると、リネアのようすをみにきました。リネアはあいかわらず、ねむっていました。やまみたいにどんと。

　やがてやまが、……いえ、リネアがおきあがりました。リネアはさいしょ、わけがわからず、パパとポールのかおを、こうごにみつめていましたが、やがて、こうたずねました。

「ママは？」

すると、パパがこたえました。「だいどころだよ」

（P.31）

リネアはさいしょ、ママとめもあわせられませんでした。ママもです。

リネアはママのすわるいすに、ちょこんとこしをかけました。ママにちかづかないように、できるだけはしっこに。でもちいさないすだったので、ママがかぼそいこえは、リネアのところまでとどきました。

（P.32）

「え、なに？」リネアがたずねました。

「ごめんね、かわいいリネア」

「わたしも、ごめんなさい」リネアはママにぎゅっとだきつきました。

「ママね、きょうはリネアとたくさんあそべたらって、あれこれけいかくをたててたの」ママがせつめいしはじめました。「でもうまくいかなくて、がっかりしちゃったのよ。これからは、むりにけいかくをたてるのは、やめるわ。あなたのきげんまで、きめられないもの。いつもきげんがいいこなんて、いないしね」ママがわらいました。

それから、「コップをボンドでなおしましょう」とリネアをさそったあとで、こういいました。

「ママはたまにおこりんぼママになっちゃうわ。でもね、リネアをだいすきなきもちに、かわりはないのよ」

　リネアはこくりとうなずきました。リネアもおなじきもちだったからです。

「ママ、わたしもおこりんぼリネアになるときがあるよ。でもね、ママがいつでも、だいすきなんだ」